

3月18日、兵庫県立大学国際商経学部の高階ゼミ、加納ゼミとひょうご仕事と生活センター（以下センター）の共同研究発表会を開催しました。

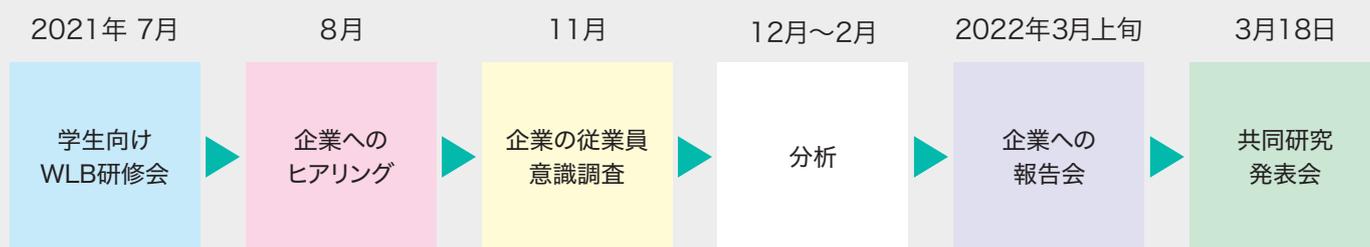
本共同研究は2012年度から行っており、毎年、企業へのヒアリングを基に、ワーク・ライフ・バランス（WLB）に関する研究テーマを設定して調査などを実施し、新たな視点から課題の洗い出しや検討を行うことで、企業・団体のWLB推進支援につなげることを目的としています。2021年度はWLBの取組が進んでいる企業を選定し、企業の協力を得て従業員意識調査を実施した上で、分析を行いました。

調査の分析では、重回帰分析という手法により、WLBに関する諸要素（WLBの充実度、制度など）や組織運営が、従業員の心理や態度、職務満足度や職務上の協力



関係などにどのような影響を与えるかという因果関係を明らかにしました。

共同研究発表会では、ゼミ生がチームごとに分析結果の報告や改善策の提案などを行いました。



■高階ゼミの調査結果

[2021年度]

（対象業種：小売業）

テレワークが浸透する中で、「テレワークは従業員に不安や孤独感をもたらすのではないかと仮定した分析では、コミュニケーション不足が生じやすいという結果が出たことから、「オフィスとテレワーク者を常時接続する通話環境の整備が有効である」といった提案がなされました。

また、働く人の多様性や周囲のサポート等、WLB風土があれば従業員の創意工夫が生まれやすくなり、職務満足度やWLB満足度の向上につながることが明らかになりました。

■加納ゼミの調査結果

[2017年度～2019年度の再分析]

（対象業種：製造業）

従業員の職務満足度とWLB意識の関係性や、WLB意識を高めることで組織にどのような影響があるか、等の分析報告がなされました。WLBの推進は、職務満足度やモチベーションを高め、組織への愛着、コミュニケーションに良好な影響を与えることが明らかになりました。

まとめ

今回の調査から、WLBの取組を積極的に推進することが、企業・団体や職場にとってプラスの影響を与えることが確認できました。この報告結果は他の企業・団体においても参考となるものであり、今後のセンターでの支援に生かしていきます。